

第1回行政改革推進委員会（会議メモ）

出席者

【委員】

- ・熊崎 徹三（下呂） ・今井 實郎（萩原） ・松山 則樹（萩原） ・野口 博二（萩原）
- ・田口 洋子（下呂） ・中島 洋三（下呂） ・大前 保彦（萩原） ・石原 郁夫（小坂）
- ・早子 雅司（小坂） ・河尻 和憲（金山） ・松嶋千恵美（下呂） ・千田 文重（金山）

【執行部】

- ・市長：山田良司 ・助役：岡崎和幸 ・収入役：小池永司 ・教育長：田口正邦

【事務局】

- ・総務部長：細江和彦 ・総務課長：今井 實
- ・行政改革推進室長：池戸昇 ・行政改革推進室課長補佐：今井藤夫

会議メモ

- 1、開会 行革推進室長
- 2、辞令交付
 - ・市長から各委員1人ひとりに交付
- 3、行政改革推進本部長（市長）あいさつ
 - ・多忙の中、参加いただいたことに対するお礼。
 - ・おかげで大きな問題もなくスタートし、半年間市政を運営することができた。
 - ・議会でも行革に関する一般質問が多数あった。
 - ・観光立市を目指し、歳入を増やし、無駄を排除する努力をしていかなければならない。
 - ・下呂市の最重要課題として捉えている。
 - ・合併した今がチャンス。困難に勇気をもって挑んでほしい。
 - ・民間の皆様の英知を結集し、ご指導・ご協力をいただきたい。

自己紹介 ・各委員が名簿順により自己紹介。
・市関係者が名簿順により自己紹介。
- 4、協議事項
 - （1）下呂市行政改革推進委員会会長の選出
 - ・条例第4条の規定に基づき会長の選出をしていただきたい。

今井：事務局案はないのか。
室長：別添名簿参照。年長者の熊崎徹三さんをお願いしてはどうか。
・・全員拍手で承認・・
 - （2）会長の指名する委員の選任
 - ・会長の職を代理する委員を会長より指名していただきたい。

会長：今井實郎さんをお願いしたい。
・・全員拍手で承認・・
 - （3）下呂市行政改革推進本部の取組み
 - 下呂市行政改革推進委員会設置条例
別添資料により室長から説明。
 - ・委員長でなく会長との呼称に意味はあるのかの質問に他意はない。
 - 下呂市行政改革推進本部設置要綱
別添資料により室長から説明。

会長：諮問答申のみで、委員会として意見を述べていくことは可能か？ で説明する。
行政改革推進に関する組織体系
別添資料により室長から説明。
 - ・諮問、答申だけでなく、市民の代表として意見をいただくことも可能。
行政改革に係る研修計画

別添資料により室長から説明

- ・分科会で計画した研修等に委員の方にも参加していただきたい。

行政改革推進に関する専門分科会の設置

別添資料により室長から説明

- ・職員による14分科会を組織し、各課題について検討する。

行政改革に係る職員提案制度の実施

別添記載例をもって今井から説明

- ・650人(グループ)から、1000件を超える提案がある。これを分科会等で検討していく。

上記についての質疑・意見

会長：財政改革と組織(機構)改革が大きな柱だと思う。委員会のスタンスについて再度確認したい。

市長：民間の英知を結集していただくことが基本的スタンス。したがって、答申と提言の両面があると思う。積極的に提言もいただきたい。

会長：職員の分科会と委員会の関連を確認したい。自分なりに課題と意見もある。

助役：提言いただいた内容は、分科会等に下して検討する。

検討した事項を審議いただいて、内容が不十分なら再度検討するよう、常にチャッチボールしながら作り上げていきたい。

野口：行政の中身について、詳しく勉強する機会も設けてほしい。

会長：資料(情報)の開示・提供を積極的にお願いしたい。

今井：分科会の中身を見ただけで、市長の意気込みが伝わってくる。

委員個々の意見を集約・検討し、委員会の統一見解としてあげていければいい。

地域の代表者として地域エゴをぶつけるのではなく、下呂市民として、新生下呂市としての視点で議論を進めていきたい。大英断をもって進めてほしい。

即効性のあるものについては、財政的にも早急に形を出していきたい。

松山：委員会として積極的に意見を提言していくとう認識でした。

会長：先の新聞報道で3月までに6回の開催はあまりも少くないか。

もし、そういう考え方なら、委員会は形骸化したものでしかない。

週1回程度開催するような気概がなければ。

開催時間等について後ほど調整いただきたい。

(4)下呂市内の視察について

先ほどの勉強会の一環。他の町村については不明な部分も多い。管内視察を計画したい。

- ・全員賛成。

5、意見交換

松山：皆が多忙である。開催日を調整する意味でも、12月位までの日程表を作成して配布してはどうか。

早子：課題が多すぎて、全てを網羅し全てを理解することには無理がある。

委員会で出された意見を基に、行政(事務局サイド)で検討し形にしていてもらいたい。

中島：とにかく先へ進むこと。試行錯誤しながらでも、少しずつでも前に進んで結論を出していくことが重要なのではないか。

田口：せっかく委員を引き受けたのである。なるべく早く資料(課題)を提示してもらい、検討することをしていきたい。

松山：10月中に昼間2回、夜間2回程度の勉強会を開催できないか。

今井：今すぐに取り組んで来年度予算に反省させるものはしていきたい。課題により緊急性のあるものがあるはず。課題を整理して提示していてもらいたい。

会長：資料収集は、個人レベルで行なってもいいのか。

- ・過去の町村の委員会の例から6回程度という回数を示したのみ。

- ・分科会等も本日の本部会議で了解をもらって、10月に入って順次立ち上げていく予定。

- ・資料の提出を求められても、早急に対応することは困難。

- ・役所内部の体制づくりを行い、課題も発掘途中で、全てが緒についたばかりである。

- ・資料収集については、ルールの中でなら対応は可能。ただし、全委員に課題を共有してもらうためには、事務局で準備し示すことも必要であり可能。

会長：新年度予算に反映できるものはしていきたい。

委員会の担う役割の範囲についても確認したい。

市長：予算に反映できるものはしていきたい。いただいた提言は尊重したい。

松島：市民の中にも様々な意見がある。こうした意見を聞いてくれる窓口を早急に設置してほしい。
市民の声を拾い上げる工夫もしてもらいたい。

助役：貴重な意見で参考にさせていただく。

議会でも注目されている案件については資料を提示することもできる。

合併の未調整事項も多い。そうした点も検討いただきたい。

会長：地域審議会との関連はあるのか。

助役：合併前の各町村の意見を市政に反省させるため、各町村10人の委員が選出されている。

新市建設計画や総合計画に対して意見を伺う。

総合計画策定委員会との関連はあるが、本会との関連は少ないと解する。

河尻：答申が主なのか意見具申が主なのか。

市長：両方が本会の重要な役割。答申については重要課題を選定してのものとなる見込み。

今井：実態把握が必要(したい)

市長：行政側もスタートしたばかり。半年から長くても3年で結論を出していきたい。

行政側と本委員会が両輪となって、並行して進めていきたい。

6、閉会（会長）

今後の進め方について事務局と協議し連絡させていただく。